

# 龍源寺報

孟蘭盆号

臨濟宗・妙心寺派  
住職 松原信樹  
佛母寺住職 松原覚樹  
正福寺住職 松原行樹  
TEL 3451-1853  
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: <http://www.ryugenji.com>

## 孟蘭盆會におもう

僧侶の宅配をインターネット通販会社大手のアマゾンが行っている。こういうことは、アマゾンではないが、実は以前からあった。ただ、何かのきっかけがあつて、ポンとこの問題がでてきたような気がする。仏教側の世界とは別のインターネットの世界での倫理のようなもので、「僧侶の宅配」みたいなことをしたから、問題になったのだろう。こういうときは、仏教側の毅然とした倫理を伝える必要がある。

何が正しいことなのか。「正しい」というのは、私がそう思うというのではなくて、誰にとつてもそうであるはずだということである。

私は、インターネットが普及しても、情報の質が向上したわけではないと思う。「僧侶の宅配」だったら、どのような僧侶が来るのか全くわからない。ただ、料金は明確である。

時間は、内容のないものを淘汰する。諸行無常と言われる移ろいでいる世の中で、釈尊は亡くなつても、仏教の教えが二千五百年前からあり、そこには、口伝や經典で仏教を伝えた仏弟子の生死が繰り返されている。又、詠み人知らずが書いた詩なども、現在読みつづけられてい

るものがたくさんある。著名人が作ったものであろうとなかろうと関係ない。残るものは、必ず残る。それを、仏教では「相続」といい、正しい見方だとされている。「インターネットの本質」とは、そのようなものだとは私は認識している。

スマートフォン、携帯電話、ライン、フェイスブックなどのコミュニケーション・ツールもますます多様化しているが、それによって私達は豊かな生活を享受できたか。これらのものの進歩が人間を豊かにするならば、私達はもつと豊かにいきていると思う。むしろ、人間と触れ合うことのできない、仮想空間のネットゲームばかりしているネット依存症の人達や、犯罪者を生み出している現実を、インターネットを普及させている世界の人はどう受け止めているのか。私は、常日頃、インターネットについての考え方に気をつけたいと思っている。先日、立て続けに二台のパソコンが壊れ不便を感じた。パソコンを使う生活は、もうすでに私達の生活に浸透しているものなので、今一度、龍源寺の玄関にあることば、脚下照顧(きゃっつかしようこ)。立ち止まって、私達の生活の足下をみていただきたい。アマゾンの件も同様である。

## 寄付

金五十万円也 匿名殿  
金二十万円也 正木幹雄殿  
金二十万円也 下平英生殿  
金二十万円也 吉田洋子殿  
金一万円也 正木繁雄殿  
金一万円也 正木富志子殿

## 観音さまに

金三万円也 勝田明子殿  
金三万円也 丹澤絹子殿

## 日月庵坐禅堂

金三十万円也 武内隆幸殿

## ありがとうございました

\*将来は、本堂の裏地を整理して、  
大般若経を納める経蔵を建立する  
計画をしております。

## ウラボン法要

一、七月十日(日曜日)午前十一時から

一、法話

一、齋座

・新盆の法要を行います。  
・ご家族そろってお参りください。

## 龍源寺への交通の便(地下鉄)

- 都営三田線(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

## 龍源寺への交通の便(都バス)

- 田87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車
- 都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車
- 品97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ(循環) 魚ラン坂下・古川橋下車
- 東98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下下車

## 龍源寺の歴史について(六)

松原 泰道

はじめに記しましたように、龍源寺は麻布本村から現在地の三田に引き移ったのは元禄十一年(一六九八)二月五日であります。今から二百六十九年前になります。

その移転の理由は古記録によりますと、水のはけ方が悪く境内南方の崖は、風雨のたびに崩れるので元禄九年(一六九六)の頃から寺社奉行に願ひ出で、隣地の農家惣右衛門の田畠九百六十三坪に替地することを許されました。

然し、そこもまた幕府の用地になることにきまつたため、改めて幕府機関に代地として三田古川町の小出千代という武家の上屋敷内を希望地に申出て許可されました。

その頃の当寺住職四世絶外和尚の古文書を見ると敷地千二百五十坪余で「東は水谷主水殿、西は古川

を隔てて堀玄番守殿屋敷に接し南は農家源蔵の住居に、北は古川に注ぐ幅一間の下水で限られた地域」とありますから、ほぼ現在地であると思われれます。

現在地は豊岡町といいますが、それは「東京市史」によると豊岡某が開拓したのによるといわれています。

龍源寺の前身の龍翔院の三田移転と共に、水月堂(観音堂)も移されたと思われれます。開山さまが帰依された当寺の如意輪観音さまは安産の観音さまとして古来親しまれ、火伏せの観音と崇められました。享保年間には江戸三十三所の二十四番霊場であったことが、「続江戸砂子」に記載されていますが、現にその石標が本堂前に水鉢と共に現存します。そのご詠歌に「あわれみのちかいあまねきしるしにや波もかけきそうかむひろを」とあります。

その後三十年を経た延享二年

(一七四五)には東都府内三十三所の二十番札所ですから当時の江戸でも広く知られた霊場と思われるます。また本堂に聖観音さまも奉安されてありますが、その記録はありません。

古川移転当時の境内古図が保存されていますが、それを見ると千二百五十坪余の境内には、山門(間口三間半)は古川に西面して立ち、門の左側に鎮守堂、浴室、鐘楼が並び、向い側に衆寮(寺僧の宿舎)と三間梁の寮があります。浴室の北側に前記の水月観音堂を拝します。三間四方とあります。その外に拝殿を見うけます。山門正面が玄関で右側は大庫裡、左方が方丈(本堂)、方丈の裏が位牌堂で、そこから並木を距てて東北に墓地という規模でありました。



孟蘭盆會を迎えます。五月十日～三十日まで、京都妙心寺で二週間ほど高等布教講習会に参加してまいりました。

修行道場に準じた生活規範の中、全国から五十人近くの僧侶が集まり、お題を与えられ、法話を制作し互票を取り、幹事の先生から講評をいただきました。今回は、七人のグループの班長の立場でした。色々なタイプの法話を聞くことができ、大変貴重な時間でした。父・哲明はその講習会の主幹を四回ほど行いました。多くの縁を感じます。二年に一回行われ、今年で三十八回目になります。講習会の間、泰道和尚・哲明和尚の話が飛び交い、共に同じ会場にいる錯覚を覚えました。▼四月十日に行われた、芝仏教界の花まつり行事は、お稚児さん五十名の稚児行列になりました。お稚児さん一人にお父さん・お母さん、もしくは、おじいさん、おばあさんもいらっしやるので、大変盛大になりました。子供が集うことはいいことですね。▼六月六日は、哲明和

尚の七回忌正当の日にあたります。昨年、泰道和尚との合同法要を厳修したため、寺族と弟子でささやかな法要を行いました。▼東洋大学の大学院で指導教授でお世話になりました菅沼晃先生がお亡くなりになりました。私には、僧侶としての師匠と学問の先生がおります。菅沼先生からいただいた、サンスクリット語の学恩を大切にしていきたいと思えます。▼母は茶道の先生・民生委員と活躍中です。最近、少し膝の痛みなどを抱えており、通院する日が多くなりましたが、気持ちはいつもと元気でいてくれます。妻、亜矢との間に子供が授かりました。人より少し遅いですが、それも私達夫婦のペースなのかもしれません。二番目の仏母寺住職は、日本とアメリカの往復で忙しくしております。三番目の正福寺住職は、九州の方に二週間程、巡教といって、布教活動にでかけました。大変、充実した巡教だったようです。最近、哲明和尚に似てきたなとつくづく思います。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、

僧侶がいらないとお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきたいと思えます。葬儀社も信頼のある葬儀社を紹介させていただきます。丁寧な仕事で皆様にご喜ばれています。渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていたければ、どなたでもこのお墓を使用できます。最近、墓地の改葬が増えているようです。又、若干ですが、墓地もございます。▼七月十日、午前十一時より、孟蘭盆會の法要を厳修致します。新盆の方をはじめ、ご家族でお参りください。旧来から柵経に伺わせていただいている御檀家様には、前もって、お参りの日時を記したハガキを郵送させていただきます。▼七月九日・十三時より、ちらし寿司のお野菜の刻みを行います。お手伝いいただける方、宜しくお願ひ申し上げます。これからも、お寺伝統の味を受け継いで行くために、初めての方の参加も歓迎いたします。(信樹)